

静岡産業技術専門学校自己評価報告書について

平成 26 年（2014 年）4 月、文部科学大臣認定による職業実践専門課程制度が始まり学校自己評価及び企業関係者を含む学外委員による学校関係者評価を実施しその結果を原則として公開サイトで公開することが認定要件となりました。

本校は現状として、設置 9 学科の内 完成年度を迎えている全 8 学科が職業実践専門課程の認定を受けています。令和元年（2019 年）9 月には高等教育修学支援新制度の確認校として認定され、さらに詳細な情報公開を開始しました。学校自己評価・関係者評価は毎年度実施し、結果を本校公式サイトにて公開しています。

令和 5 年度（2023 年度）実施にあたって

これまで確立してきた企業との組織的な連携体制のもとに、より実践的な職業教育を担う専門学校として、学校自己評価・関係者評価に毎年度取り組み、広くご意見をいただきながら、さらなる教育の質の向上、情報提供に取り組んでまいります。

評価の基準

本報告書の学校自己評価は、平成 25 年（2013 年）3 月に文部科学省より発表された「専修学校における学校評価ガイドライン」をふまえて全 67 項目について実施しました。

評価の基準日

評価対象：令和 5 年度 作成日：令和 6 年（2024 年）5 月 2 日

評価報告書の構成

本報告書の各点検項目（67 項目）は、下記のような要素で構成されています。

1. 教育理念・教育目標
2. 令和 5 年に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
3. 評価項目の達成及び取り組み状況

学校評価委員の学内委員

委員長	佐藤 雅一	（学校長）
統括責任者	深澤 みほ	（教務課長 こども保育科学科長）
委員	静 紀代子	（総務課 課長）
	澤入 明子	（就職支援課 課長）
	望月 操	（入試広報課 課長代理）
	前島 理恵子	（教務課長補佐 医療事務科・建築科 学科長）
	鈴木 壘	（教務課長補佐 ゲームクリエイト科・CG 技術科 学科長）
	塩崎 雅基	（みらい情報科 学科長）
	島田 幸紀	（コンピュータ科 学科長）
	仙波 久実	（CADデザイン科 学科長）
	河内 嘉美	（デジタル経営科 学科長）

1. 教育理念・教育目標

教育理念

社会人として自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

教育目標

学校教育法に基づき、工業・商業分野における専門実務教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、教育分野における知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与することを目標とする。

教育ミッション

「先端技術教育」×「人間教育」 2つを柱に職業人を育成

～ Passion × Direction × Time ～

2. 令和5年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

経営重点施策（骨子）

- ・第4次中期計画のKGI「目標達成指標」（につながる中期計画実行2年目の目標KPI「業績評価指標」の達成に向かって取り組む
- ・組織的な教職員体制のため、育成研修（OJTを含む）の充実とファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメントを推進する
Team SANGIとして学校運営に関わる教職員全員のスキル（能力・専門知識・経験）を最大限に発揮できるチーム開発を推進する
- ・専門学校における職業教育のマネジメントに組織的かつ戦略的に取り組む
学校全体から部署・学科・クラス・授業においてそれぞれのレベルでPDCAサイクルを回す
ステークホルダー（学生・保護者・高校・企業等）の視点に立って成果を可視化し、データを基に取り組みを評価・検証・改善する
産官学連携プロジェクトを推進し、対外的な活動に積極的に関わることで、学生PBL/教員/学校としての実績を通して認知度と対外的な関係性を広げる
卒業生（同窓会）システムのサービス開始とそれによる卒業生とのつながりを活性化
- ・学生・教職員の一貫したマナー向上運動を継続し、学校教育環境の美化と充実を図る
- ・限られたリソースで効果的に成果を上げる教育DX推進と、ハラスメント防止対策や様々なインシデント防止対策を徹底し、学校の一貫したリスクマネジメントを常に意識した組織的な連携体制を確立維持する

活動・運営に関する目標や計画の項目

<教務>

- ・ 各科ごとの就職目標の達成 内定率・専門職率（関連職率）
- ・ 各科ごとの重点目標の達成 ※各科実績報告参照
- ・ 各科ごとの目標入学者数の確保
- ・ 退学率抑制 目標退学率4.0%（32名）以内
- ・ 新学科「デジタル経営学科」開設準備、既存6学科のカリキュラム改編運用準備
- ・ 学生への職業理解やキャリアデザインの取り組み
- ・ 教員スキルアップへの取り組み

<就職支援>

- ・ 就職内定率100%、関連職内定率95%の達成
- ・ 各科ごとの目標とする重点企業への内定と専門職内定率の向上
- ・ 時期・規模・分野に応じた多角的な就職支援活動の計画と実施
- ・ 就活ゼミの運営と教務との連携による就職活動支援
- ・ 卒業予定学生数増加に対応した効率的、効果的な就活支援
- ・ 業界・企業との関係性を構築

<広報活動>

- ・ 目標入学者数265名以上の確保
- ・ デジタル経営学科の募集初年度であり目標定員以上の確保
- ・ 女子の入学者数を目標定員30%以上の確保
- ・ オープンキャンパスの内容充実、1・2年生向け募集活動の充実
- ・ Web サービス（ホームページ、SNS）等による情報発信の拡大

<総務>

- ・ 学生や来訪者への窓口対応とスムーズな電話対応
- ・ ステークホルダーとしての立場を意識した柔軟で的確な対応
- ・ 快適な教育環境を提供するための校内美化への取り組み
- ・ 教務・広報・就職との連携強化
- ・ 正確かつ効率的な事務処理の遂行（むだの削除、コストの削減、DX推進）

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

（1）教育理念・目標

自己評価

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
学校自己評価 平均		3.8

成果と課題

- ・学生に教育理念・目標を周知徹底するため、当該情報を掲載した学生便覧を配布している。
- ・入学時の新入生オリエンテーションでは、教務ガイダンスとして学則・教務規定などを教務課長から伝えている。
- ・クラス毎のガイダンスでは、デュプロマポリシーも含め説明をしている。
- ・職業教育の特色は学校案内パンフレットに掲載されている。また、オープンキャンパスや後援会総会では、必ず教務課長から説明している。
- ・学校の将来構想については、法人内専門学校5校の第4次中期計画として計画され、実行されている。
- ・学校及び学科ごとの育成人材像については、オープンキャンパス、学校説明会等で説明を実施している。
また、学生に対しては入学生オリエンテーションにて、保護者に対しては、後援会総会・授業見学会等を通じて説明を実施した。
- ・授業見学会は、1年生を対象に対面で行った。
対象学年を1年生に絞ったが、人数制限は設けず、多数の参加を促した。
- ・各学科の教育目標、育成人材像の業界ニーズを把握するため、教育課程編成委員会を年2回開催し外部意見の反映に努めている。
- ・新学科「デジタル経営学科」の開設準備・6学科の新カリキュラムの改編運用準備を行った。

今後の改善方策

- ・今後も継続して紙媒体、ホームページ掲載などを通して、学校からの情報発信を継続実施する。また、常に最新情報となるよう内部体制強化を図る。
- ・入学前のオープンキャンパス・学校説明会の開催方法については、Web・SNSの活用方法など周知方法を検討している。
- ・令和5年度の授業見学会・後援会総会は、対面での方法で開催した。対面以外のオンライン・その他、新しい開催方法を模索していく。

(2) 教育活動

自己評価

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	3
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	3
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	4
学校自己評価 平均		3.8

成果と課題

- ・入学時と前期後期の2回に分けて、新入生アンケート・授業アンケート調査を継続している。
- ・授業アンケートの「シラバス」の項目については、数年注意してきた。令和5年度の結果としては「説明を受けていない」という回答はほとんど無くなった。ただし、「覚えていない」という回答が学科により偏りがある。
- ・アンケートのフィードバックは専門学校グループの教育分科会でも課題にしており、令和5年度は各講師への早いフィードバックを心がけた。
- ・すべての学科で該当する関連分野の企業・団体様との連携を深め、教育課程編成委員会を開催し外部委員からの意見やアイデア、最新の業界動向等を教育カリキュラムやキャリア教育の改善に活かす取り組みを実施している。委員会にていただいたご意見を参考に新カリキュラムの手続きを完了した。適宜同会議にてカリキュラム内容については、承認をいただいている。
- ・全ての教員が「関連分野における先端的な知識・技能等を修得」「教員の指導力育成」などの資質向上を目的とした研修に参加した。
- ・各科授業内容の理解度については、課題・小テスト・ミニツツペーパーなど確認をし、担当教員が状況を把握している。状況により、補講や課題を行っている。

今後の改善方策

- ・公開情報としての科目シラバスに基づいて、成績評価や授業評価の精度を向上させる。

(3) 教育成果

自己評価

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	4
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
学校自己評価 平均		3.8

成果と課題

- ・就職内定率は例年 100%を維持している。
- ・関連職内定率（履修した分野に関わる職種等への内定割合）を向上させることに重点を置いた学科の運営や就職指導を行い、学校全体として93.8%の関連職内定率を達成することができた。
- ・資格取得に関しては、例年の実績相当の資格取得実績をあげることができた。
- ・退学率は3.35%（目標4%以内）となり、目標を達成することができた。
- ・一部の学科では、学生向けの特別講座を卒業生にも公開した。公開することにより、卒業生の状況の把握・活躍を確認することができた。

今後の改善方策

- ・卒業生の社会的な活躍、就職後の定着状況を調査するなど把握のための施策を講じる。
- ・同窓会サイトの充実を図る。
- ・昨年度リニューアルした同窓会システムの運用を軌道に乗せ、名簿管理機能に加え、同窓生への情報発信や同窓生からの情報提供が可能なコンテンツを増やし、同窓生同士のつながりを促す。

(4) 学生支援

自己評価

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
4-5	保護者と適切に連携しているか	4
4-6	卒業生への支援体制はあるか	4
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	4
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
4-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
学校自己評価 平均		3.8

成果と課題

- ・就職支援体制は、『就活ゼミ』を導入しており、学生1人に対して就職担当、担任、就職ゼミ担当の3方向からサポートしている。このことにより就職活動に必要な基本的就職活動リテラシーの指導・サポート体制と、専門職内定率を向上させるための学科・クラス担当からの学生への情報提供・サポート体制を明確化し、内定率、専門職内定率ともに高いレベルでの維持に成功している。
- ・学生相談窓口として、クラス担任による通常の対応と、スクールカウンセラーによる相談を毎週1回開設（月曜日）している。
- ・学生・保護者の経済的負担を軽減する措置として、高等教育の修学支援新制度に則り対象校の手続きを行っている。
- ・総務部門に学生支援機構の奨学金制度や官民の教育ローン制度等の学生・保護者に対するサポート職員を配置し、随時相談受付を行っている。
- ・安全な学校づくりの一環として、令和5年度は教員対象の救命救急講座を実施した。
- ・保護者会組織である後援会が組織されており、学校に事務局を設置している。また学生の状況については、必要に応じて保護者との情報共有に努めている。
- ・卒業生を会員とした同窓会が組織され、学校に事務局を設置している。離職してしまう卒業生については、就職相談室にて相談及び既卒者向けの採用情報などを提供している。
- ・複数の高校との連携授業を継続して行っている。
- ・就職担当を専任で配置し、求人開拓を含む就職支援統括を学校として行っている。
- ・課外授業としての学校行事・イベント（春遠足：ディズニーリゾート・11月：スポーツフェスティバル・秋遠足：各科ごと）は、安全に開催できた。このほか、各科の実習・研修などは安全に実施できた。
- ・課外活動に対しては、適切な保険などに加入し安全に実施している。
- ・実習室のパソコンおよび教室の環境整備については、社会のニーズ・教育の有効性を踏まえて計画的に整備している。

今後の改善方策

- ・学生の健康管理について、保健室は設置しているが常任の学校医がいないため、専門的知見によるアドバイス等は行われていない。
- ・カウンセリングについては、毎週月曜日にスクールカウンセラーがカウンセリングを実施。利用機会は限られているが、学校にて緊急の事案と判断した場合は、定例のカウンセリング以外にもカウンセラーを手配し実施するようにしている。

(5) 教育環境

自己評価

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	4
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
学校自己評価 平均		4.0

成果と課題

- ・ 講義室及び実習室は、実習に必要な室数、面積、パソコン台数や実習機器が確保され、ソフトウェアについても定期的にバージョンアップが行われている。
- ・ 毎年計画的に実習室の機器などの入替・メンテナンスを行っている。令和5年度は、ゲーム実習室のパソコンを入れ替え、5つの実習室で 프로젝タを天吊りに変更し、学生使用可能なスペースを広げた。
- ・ 学内ネットワークの老朽化及び学生数増加に伴うネットワーク負荷の増加に対応するため、Wi-Fi 設備を変更した。
- ・ 3～5F エアコン改修工事を実施、また2～5F 講義室・廊下・トイレの照明をLED化した。
- ・ 放課後等実習室などの貸し出しに関しては適切に行っている。
- ・ オンライン面接・説明会用スペース テレブースは、予約制により順調に貸し出しを行っている。
- ・ 図書については各科で必要図書を購入して教室や実習室に配備し、学生が適宜閲覧できるよう整備している。
- ・ 各講義室及び実習室における地震、火災等における避難経路は設定されている。新入生に関しては、4月中に避難経路の確認を行っている。
- ・ 本校の防災訓練は、9月に同校舎を使用している静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校と合同で実施した。1000人規模の避難訓練となった。
- ・ 緊急地震受信装置「デジタルなまず」の整備・メンテナンスを行った。
- ・ 実習・インターンシップについては、各科事前指導を実施している。
- ・ 研修旅行については、事前に2回説明会を実施し安全な実施に努めている。

今後の改善方策

- ・ オンデマンド教材の充実と活用で、教育活動の効率化や高次のアクティブ・ラーニングの充実を図る。

(6) 学生の募集と受け入れ

自己評価

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
学校自己評価 平均		4.0
<u>成果と課題</u> <ul style="list-style-type: none">・令和5年度の募集活動の結果、令和6年度の入学者は、入学定員215名に対し279名となった。・入学案内について、本校の基本教育をはじめカリキュラムや目標資格等を明記できている。・募集要項について、入試方法や学費等他の専門学校と比較しても内容に不足等なく適切である。・学生募集活動にあたっては、虚偽・過剰なことの無いよう事実に基づいた情報提供と対応を実施している。 また、オープンキャンパス等のイベントについても状況に応じて運営方法を改良し対応できている。・教育成果についても、日々正確な情報の蓄積に努め、誤った情報が伝達されないよう厳正に対応している。・学納金については、日々の教育活動を維持するために必要な経費が確保できるものとなっており、他の専門学校各校と比較しても妥当な金額に設定されている。		
<u>今後の改善方策</u> <ul style="list-style-type: none">・学校全体の定員充足と、全学科の定員充足を目指し、募集活動上の対策を講じる。 令和6年度より開設した「デジタル経営学科」について、認知度向上に努めるとともに大学併願者の受験も視野に入れた募集活動を展開する。・教育の質を担保するため、入学前教育・入学時の学力調査などを適切に行い、授業運営・学生指導に役立てる。		

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

自己評価

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4
学校自己評価 平均		4.0

成果と課題

- ・学校法人全体を統括する理事会・評議員会は年3回、5月、9月と2月に定期的実施され、議事録は適切に作成管理されている。
- ・就業規則などの諸規程は整備されている。全ての規程集については電子化されており、教職員がパソコンの画面で自由に閲覧できるよう整備されている。
- ・組織間の連携は、校長ミーティング及び4つの分科会（進路、教育、募集、総務）やワーキンググループ、中期計画策定委員会を中心に十分な連絡会議が持たれている。
- ・避難経路確認は、入学直後に行っている。また、9月の防災訓練については、静岡インターナショナル・エア・リゾート専門学校と合同で実施した。
- ・令和5年度 防火管理者研修に新たに2名の教員が参加し、消防計画への理解を深めた。
- ・セクシャルハラスメントのみではなく広くハラスメント全般に対応するようハラスメント委員会を設け、委員名や連絡方法、またハラスメントへの対応等を明記した文書を校舎内廊下に掲示している。
- ・情報セキュリティ委員を選任し、情報の持ち出しに対しては管理記録簿により管理している。
- ・学園の財務情報はホームページ上に公開され常時閲覧可能である。財務分析比率は適切な数値となっている。
- ・公開情報として、学校情報・カリキュラムポリシー・高等教育の修学支援制度を適切な時期にホームページにて公開している。

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

自己評価

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
8-4	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3
8-5	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
学校自己評価 平均		3.6

成果と課題

- ・学校施設を活用した、高校生の職業体験授業や技術体験授業、などを随時受託している。
- ・留学生の受入体制について留学生サポート教員を選任し、クラス担当とともに留学生のケアに努めている。
- ・一部の学科ではあるが、特別講座を卒業生および地域団体職員へ公開した。
- ・地域貢献として、IT パスポート試験対策講座を県内大学生・一般に向けて実施した。
- ・学校が窓口となり複数のボランティア活動を奨励・支援している。